

事業運営報告

1. 事業報告

1. 定期演奏会（第200回～第207回）

ザ・シンフォニーホールを会場として金曜・土曜と2日連続の8公演、いずみホールを会場として4公演の計20公演を開催した。指揮者には2014年4月より首席指揮者に就任した飯森範親、首席客演指揮者に就任したアラン・ブリバエフを中心に海外からの客演指揮者を起用。ソリストには国内外で活躍する実力派演奏家を迎え「芸術性の追求」と「集客」のバランスを考慮し公演を企画した。また、2014年度より復活したいずみ定期でハイドンの交響曲を全曲演奏・録音する「ハイドンマラソン」をスタートさせ、シンフォニー定期との差別化を図った。

2. センチュリー四季コンサート2015

2013年度より広報、ホール使用料の減免で一般財団法人住友生命福祉文化財団・いずみホールの協賛を得て同会場で開催。

- ・センチュリーのオリジナルの編成（2管10型）を活かしたプログラム
- ・全公演を土曜日の午後で開催（14:00開場 15:00開演）
- ・ポップスや日本の名作映画音楽をプログラムに採り入れ、あらたな客層の獲得に努めた。

3. 大阪以外での共催公演

広域での観客層の拡大、楽団の認知度、スポンサーの獲得を目的とし、各地の文化財団との共催で、三重（三重県文化会館）、大津（びわ湖ホール）、京都（京都コンサートホール）、福井（ハーモニーホールふくい）の4会場で公演を開催した。

4. 社会貢献活動

小学生向けの体験型コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」（16公演）、大阪府下の特別支援学校の児童・生徒を対象にした「特別支援学校コンサート」（1公演）、入院患者や来院者のための「病院コンサート」、支援学校へ訪問演奏する「支援学校コンサート（巡回）」（10公演）、服部緑地野外音楽堂での無料コンサート「星空ファミリーコンサート」（2公演）を開催した。

また、～社会とオーケストラの新しい繋がり～を目的としたコミュニティプログラムを昨年度に引き続き開催。野村誠氏（作曲家）をコミュニティプログラムディレクターに迎え、センチュリーオーケストラハウス（7月）と豊中市庄内（12月）にてパフォーマンスを行った。（同時に各6回のワークショップを開催）

5. センチュリー・ユースオーケストラの指導

公益財団法人関西テレビ青少年育成事業団と連携し、中学1年生から29歳までの青少年を募り、ユースオーケストラを組織して指導・育成を行った。星空ファミリーコンサート、第8回定期演奏会において日頃の活動の成果を披露した。

6. アンサンブル

関西アーバン銀行心斎橋本店での「アーバンイブニングコンサート」、JR大阪駅での「センチュリーエキコン」、弁護士会館での「ランチタイムコンサート」、御堂筋での大阪クラシックをはじめ、アンサンブルでの公演に多数出演した。また京阪電気鉄道なにわ橋駅・アートエリアB1では楽員が主体となってアンサンブルコンサートを企画・開催した。

7. 依頼公演

びわ湖ホール主催のオペラ公演、文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」をはじめ、多数の依頼公演に出演した。

8. 豊中市との連携

2012年に豊中市と提携した「音楽あふれるまちの推進に関する協定」にもとづき豊中市内各地でのコンサートを実施した（アンサンブル12公演、オーケストラ1公演）。また服部緑地のオーケストラ大感謝祭！（0歳児からの体感コンサート）を共催し、同公演（2公演）は完売となり新たな観客層の発掘につながった。

9. 豊中市市民ホールの指定管理者への指定決定

2016年度オープンの豊中市立文化芸術センターはじめ既存のアクア文化ホール、ローズ文化ホールの施設の指定管理者への指定が決定。契約期間は2016年4月1日から2021年3月31日まで株式会社JTBコミュニケーションデザイン、日本管財株式会社、株式会社大阪共立と当団の4社の共同企業体として参画する。

10. 守山市民ホールとの協定

2014年10月に守山市文化体育振興事業団と音楽活動に関する協定を締結。ルシオールアートキッズフェスティバル、ルシオール街かどコンサート、ルシオール音楽塾など、守山市民ホールの主催事業に参加。

11. CDの制作

楽団のPR、演奏技術の向上を目的とし（株）オクタヴィア・レコードと協力しCD制作に参加した。

○マーラー：大地の歌

飯森範親/日本センチュリー交響楽団

※ レコード芸術 特選盤、優秀録音盤に選定

○メンデルスゾーン：交響曲第1番、交響曲第5番「宗教改革」

沼尻竜典/日本センチュリー交響楽団

※ レコード芸術 準特選盤に選定

12. オーケストラハウスの管理

大阪府から貸与を受けているセンチュリー・オーケストラハウスの一部を音楽サロンとし、音楽に関連する情報誌や交響楽団の歴史等の書籍を設置し、市民が利用できる公共スペースの場として提供した。

11. 楽団運営

1. 事務局体制

業務分担を明確にして「体制表」に基づいた職責、職務を実施した。月単位で損益の予実管理運営を行い、課題点を洗い出し以降の事業運営に反映させるPDCAマネジメントを開始。また総務経理部を中心に業務改善を行い、情報の共有、スケジュール管理、ペーパーレス化など効率的な事務局業務に努めた。

2. 広報、印刷物制作の見直し

演奏会への動員拡大のためにターゲット別広報戦略（ABCゾーン戦略）を策定し、特にBゾーンと位置付けた特定のオケの会員に帰属しない一般的なクラシックファン動員を強化するために「シンフォニア（シンフォニーホール情報誌）」や「ぶらあぼ」（クラシック専門フリーペーパー）に定期的に掲載しチケット拡売を図った。

公演毎のチラシのあり方を見直し効率的な配布を行った。期初はチラシ全廃という方針が打ち出されたが期中より見直しはかり効率的に活用した。

Facebookやtwitterをコミュニケーションツールとして活用しWEBへの流入をはかりネットでのチケット販売の促進を行った。

<上記経済効果について>

① シンフォニー定期一般販売枚数の増加 1公演あたり枚数比 25.2%増

② チラシ配布効率化による印刷製本費の削減 ▲3,216千円

③ WEBへのアクセス数増とネットチケット販売の増 年間アクセス数 10%増
1公演あたりネットチケット販売数 43%増

3. 欠員の楽員の補充

欠員補充のためオーディションを開催した。

- ・クラリネット奏者 1 名
- ・ヴァイオリン奏者 2 名 計 3 名が入団

4. 寄付金の獲得

個人ならびに法人のサポーター制度に絞ったパンフレットを作成し営業ツールとして活用した。また寄付者が寄付金の使われ方や、寄付をしたメリットが明確になるよう賛助会員、寄付金制度の見直しを行い、寄付金の獲得に努めた。詳細は別紙参照。